

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・休業措置下での進路情報提供は、オンラインでのガイダンスや進路だよりの配布で行った。そのため、生徒には概ね情報を伝えることができたものの、保護者に伝わり難かった面があったと考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の観点に立ち、自己の在り方生き方を考えさせながら主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するとともに、SPH、FSHを活用した専門教育を通して、将来の専門的職業人、地域の持続的発展に貢献できる人材、人間性豊かな職業人の育成を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・系統的、体系的に進路意識を高めることができるよう、各分掌、学年学科、教科と連携を密にした校内体制をとる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) キャリア形成を意識した系統的、体系的ガイダンス及びLHRの実施 (2) 学年、学科と連携した進路相談・指導の充実と適切な情報提供	(1) 学年進行とともに進路希望の具体化の程度、および希望する進路先への決定割合 (2) 生徒・保護者等を対象とするアンケートによる評価の状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
○キャリア形成を意識した効果的・体系的な進路指導の推進 ・1年生：幅広い職業理解と上級学年を見通すためのガイダンスを実施。学校生活の振り返りを行うLHRの充実を図った。 ・2年生：職種・分野別説明会を実施し進路選択に必要な情報を収集させた。小論文添削講座を2回全員に受講させ書く力、思考力の向上を図った。学校生活の振り返りを行うLHRの充実を図った。 ・3年生：休業措置下ではオンラインガイダンスや進路だよりに通じて指導。学びの特色である課題研究について全員にまとめシートを作成させ入社試験・入試選抜の準備をさせるとともに、面接指導、推薦書、調査書作成に活用。進学研究クラブを立ち上げ、国公立大学希望者への指導の充実を図った。育友会と連携し就職面接指導の充実を図った。	① 学年進行とともに進路目標を明確化し、進路未定者が減少しているか。 ② 3年進級時には全員が進路希望を具体化しているか。 ③ 進学、就職ともに概ね希望の進路先に合格できたか。 (アンケートの満足度は高いか)	A (B) C D A (B) C D ④ A B C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	○3年生は、例年と異なる状況下でも、進学、就職いずれも希望を高いレベルで達成することができた。新たに取り組んだ指導の効果はあったと考える。 ○ベテラン教員の進路指導力を、若手教員が共有し発展させられるよう研修会を設けることができた。 ▲保護者への情報提供が十分にできなかった面があった。 ▲今年度求人件数は昨年度の2割減で影響は比較的小さかったが、来年度は更なる減少が予測されるので希望の進路が実現できるよう、さらに実力を養う必要がある。 ▲新制度入試選抜への対応では、昨年度までに比べて指導の負担が増加している。	
	① 進路情報提供においては、オンラインの活用等、状況変化に柔軟に対応できる体制を整える。 ② 求人確保へ向けて、企業への積極的なアピールを学科主任と連携して進める。 ③ 指導時間が必要な小論文指導は、1年次から指導を進める。全教員があたれる体制に転換する。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日:令和3年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・各学年に応じた効果的な進路指導の取組により、成果が現れている。
- ・進路実現を高いレベルで達成することは重要な目標であり、成果が現れてよかった。1、2年次での中間評価がしっかりとできれば、さらに成果が上がるのではないかな。
- ・生徒が希望する進学や就職を高いレベルで達成できたのは、生徒の努力と先生方の指導が充実していたことによると思う。
- ・担任は、生徒や保護者の進路相談に適切に対応する必要があり大変だと思う。担任が1人で抱え込まないよう、配慮してほしい。
- ・保護者に対する進路情報の伝達を、より明確にできるよう工夫してほしい。